発見シリーズ　シャウド1：
「Discovery 1」
ジェフリー・ホップによるアダマスのチャネリング
クリムゾンサークル
2013年9月7日
www.crimsoncircle.com

私は、〈私は在る〉であり（I Am that I Am）、シャーンブラに触発されたセント・ジャーメインの〈ファセット〉、アダマスです。
（訳注：〈ファセット〉とは、全アスペクトが統合された存在における側面的個性のこと。詳しくは『自由シリーズ　シャウド 6：“Illuminated Dreams”』を参照）

それでは、新シリーズである「発見シリーズ」を始めていきましょう。深くたっぷりと呼吸をしてください。

いつもお願いしていることですが、深くたっぷりと呼吸することを通して、私がよりあなた方の近くにいられるよう許してください。私が今カウルダーと一緒にいるのと同じくらい、あなた方の側にもいられるよう許してください。ああ、もちろん、私は彼の内側にいます。ええ、私はしばらくここにいるつもりです。彼に言うのを忘れていましたが、私は今日はすぐには去らない予定です。

そういうわけですから、深くたっぷりとした呼吸をして、私アダマスをあなたの中に招いてください。私があなたの内側のあらゆる部分をくすぐることができるほど近くまで私を招いてください。ハートの中で私を感じられるくらい近くまで、私をすぐ隣りに感じられるくらい近くまで、私を招待してください。

深くたっぷりと呼吸してください。

お分かりのように、たとえ最愛の人や自分の子供であっても、誰か他の人を自分の内側深くまで招くというのは勇気と大胆さがいることです。なぜなら人間の周囲には、自分自身を守り保護するための物質的・心理的なエネルギーの層が何層にも渡って存在しているからです。ですが、あなたが彼らと内側でハグできるくらい深くまで自分の中に招くことができるとき、あなたは「許し」（allowing）と「自己信頼」を通してある意識レベルに到達したことになるのです。これはあなたの道に適うものです。

それでは、親愛なるシャーンブラよ。深くたっぷりとした呼吸をしてください。

自分の思考やマインドの中にまで私が入って来るのを許せるということ……それは自分自身のことをそれほどまで信頼できているということです。それほどまで自分に自信を持っていて、自分自身のバランスを失わずにいられるということです。

もし自分の内側に私が入って来るの許すことができるなら、あなたは他人にも同じようにそれを許すことができます。実際に自分の内側に他人を招き入れてみれば、「彼らが自分に害を及ぼすことなど本当は決してあり得ないのだ」ということにあなたは気づきます。どんなものもあなたから奪い去ることはできません。絶対にできません。彼らは多くの幻想を作り出すかもしれません。あなたから何かを奪うことができると見せかけるゲームをするかもしれません。あなたもまた、傷つきやすい犠牲者を演じるというゲームをすることがあるかもしれません。ですが――深くたっぷりとした呼吸をしてください――もしあなたが親密さを感じられるほど自分の内側深くまで私が入って来るのを許すことができるなら、あなたは自分自身に関する真の意識レベルにまで到達したことになるのです。

ああ、自分自身と言えば、深くたっぷりとした呼吸を通して自分自身がそこに入っていくことも許してはどうでしょう。あぁー、これはもっと難しいことです。自分の内側に自らを招き入れるのはさらに難しいことです。私たちは発見シリーズで、このことを含めた多くのことを話していく予定です。そして、自分が何者なのかを発見していくのです。ええ。

これは簡単そうに聞こえますが、違います。全くそうではありません。自分自身を直視するというのは恐れの感情を引き起こす最たるものの一つです。私たちはこれまで恐れについて話してきました。ジェーン、あなたと私は何度もこのテーマについて話してきました。あなた方が最も恐れているものとは何でしょうか？　言うまでもなく、自分自身です。これはあなた方全員に、そして全ての天使的存在に、当てはまることです。自分自身を認識するということ……それは最大レベルの恐れや抵抗を引き起こします。それは最も困難なことです。私たちはこの発見シリーズにおいて、まさにそのことに取り組んでいくのです。

私たちのシャウドも今月で 5 年目に入ります。（訳注：アダマスがシャウドを担当するようになったのは 2009 年 9 月から）

私たちはこの 4 年間を修了しました。いまだにあなた方の多くがここに残っているのは驚くべきことです。（聴衆から少し笑い。アダマスもくすくすと笑う） いえ、本当です。実際に私は驚いているのです。なぜなら、人生に対して何らかの意味を与えてくれる宗教や哲学というものは――あなたも知っての通り――ある種、魅惑的だからです。もちろんあなたは、人生に"真の意味"というものはないと分かっていることでしょうが。スピリチュアルなものやオカルト的なものもまた、過去世でそれらを学んでいたあなたにとって、いくらか魅力的に感じられるものです。そういったものには、あなたを魅了し誘惑する力のようなものがあるからです。

「物事が機能する仕組みについてもっと深く理解するためにそれらを研究しているのだ」と言う人もいますが、やめてください。それらは「マキョウ」（魔境）に満ちているのです。物事の仕組みが解明されることは決してないでしょう。それはそういう性質のものではないのです。そのようには設計されていないのです。

多くの人は日々の生活の気晴らしとして、そういった知識や情報を集めたり調べたりしています。彼らは天使と遊んだりするかもしれませんが、残念ながら、そうしたものは単なるゲームにすぎません。彼らは友達や親戚からオカルト好きの変人というふうに見られることもありますが、時にスピリチュアリティやニューエイジといった言葉を自分の性格の表向きの名称として使います。彼らは自分のことをまさにニューエイジと名乗るのです。（聴衆からやや笑い） 本当です。実際そうなのです。

ですが、トバイアスがいた初期の頃から――私があなた方のもとにやって来始めた 1999 年から――あなたも知っているように、私たちはスピリチュアルとかニューエイジになるためにここに集まっているわけではありません。ここはそんな目的のためにあるのではありません。全くもってそうではありません。私たちがここにいるのは――あなたがここにいるのは――自らの「肉体と統合された悟り」のためなのです。

勉強すべきことは本当にありません。何一つありません。発見していくことなら数多くあります。認識していくことなら数多くあります。あなた方は毎月毎月毎月……毎月（アダマスはくすくすと笑う）私の話を聞きにここにやって来ていますが、実際にはあなた方がアダマスというこの側面を顕現しているのです。創造しているのです。実と言うと、セント・ジャーメインとしての私は、この役に変わらなければならないことに少々困難さを感じています。誰かが言うように、このアダマスという役は幾分、偉そうで挑発的であり、あなたを少し不愉快にさせるものです。ですが、あなたのお尻を蹴飛ばしたりあなたに鋭く切り込んだりするこの役を創り出したのは、あなた方なのです。なぜなら、あなたは多くの過去世において、宗教的な組織や集団に関わり、たくさんのスピリチュアルな知識を学んで、そうしたものを面白いと思っていましたが、結局そのような生涯では自らの選択していた真の実現がもたらされることはなかったからです。

ですからあなたはこの生涯で、シャーンブラと呼ばれるこのグループ・この集まりにやって来て、こう言ったのです。「私はそれを実現するつもりだ。この『肉体と統合された悟り』を成し遂げるつもりだ。そのためなら何を経験することになろうと構わない。」 あなたが初めてここに来たとき、あなたは「世界の全てを救う手助けをするために自分はここにいるのだ」というような幻想を少し抱いていました。ですが今では「世界は救いを必要としていない」と分かっています。たとえ過去にはそうだったとしても、現在においては必ずしも人々があなたの救いを受け入れるとは限らないのです。彼らは誰の救いや助けも受けまいとするでしょうから。

あなたは「肉体と統合された悟り」のためにここに来ています。そして、あなたはそれを実現するでしょう。あなたは実現するでしょう。私はそのことに何の疑いも持っていません。仮に私が「もしかしたらそうなるかもしれない」といった程度にしか思っていないのなら、私はここにはいません。あなたがそれを選択しそうなるのを許している以上、それは実現するのです。ただし、悟りに関してあなたが事前に考えていたようなことは一切起こらないでしょう。（アダマスはくすくすと笑う。聴衆からも少し笑い）

ですから、あなたがそれを最後まで挫けずやり抜こうとしていることに、私は拍手と称賛を送ります。時には大変な時期を経験することもあります。本当に厳しい困難な時を経験することもあります。なぜなら、それはあらゆる幻想を剥ぎ取るからです。それは幻想のアイデンティティを一つ残らず剥ぎ取ります。真実でないもの全てを引き裂きます。「真の自分」を発見できるように、あなたがこれまで自分だと見做していた全てを引き剥がします。この道をやり遂げた人間はこれまでにほとんどいません。極めて少数です。

宗教や神や道徳などについて語る人は数多くいますが、立ち止まって自分の内側に目を向け、内なる旅を始める人は

ほとんどいません。それは難しいことです。しかしあなたは、この道以外のいかなるものも頑として受け入れようとはしませんでした。

それでは、ようこそ、発見シリーズへ。

発見シリーズ

この発見シリーズでは――ちなみに今シリーズは全11回のシャウドとなる予定ですが――私たちは毎月、対話形式のシャウドを行なっていくつもりです。このやり方をあなた方が大変気に入っているのを、私は知っていますからね。あなた方はリンダからマイクを渡されるのが楽しみで仕方ありません。そうでしょう？（聴衆の何人かが「そうです」と答える）
私たちが対話形式のシャウドをするのは、分かち合うべき多く知恵があるからです。ええ、あなた方はお互いにそれらを伝え合う必要があります。私やここにいる皆が見ている前で、そして、何万人もの人がインターネットで見ている前でマイクを手にするというのは、時にあなたを怖気づかせるものです。ですが、あなたが自分自身の声を聴くとき――単に口から出る言葉だけでなく、声のトーンや深さ、声の中のスピリットを自分自身で聴くとき――あなたは全てを突き抜けたあの意識に入り始めるのです。「私は〈私は在る〉である」を実感し始めるのです。あなたは長々と話すことを止め、簡潔に話し始めます。すると、それを聞いている皆もあなたの声からあなたの〈存在〉を感じ取ることができるのです。

そういうわけで、私たちは今年度もこの対話形式のシャウドを行なっていきます。それは活発なものとなるでしょう。クレイジーなものとなるでしょう。時にはあなたを少し動揺させることもあるかもしれません。ですが、対話をしながら進めていくこのやり方は、あなたが自分自身の声を聴くには絶好の方法なのです。

もちろん私は、毎回のシャウドの中で興味をそそるような魅力的な講義を行なっていきます。そしてさらに私たちは、この発見シリーズで毎月何かしらの体験を経験していきます。メラブのときもあるでしょうし、もっと別の種類の体験のときもあるでしょう。単に私が話すだけのシャウドはもう必要ありません。私たちはその段階にまで来ています。今こそ実際にそれらを経験するときなのです。ですから、毎月行なうそれらの体験に心の準備をしておいてください。

時には、経験したとすぐには分からないこともあるでしょう。実際に経験したにもかかわらず、すぐにそのことに気づかないこともあるでしょう。時として、実際に起こったことを認識するのに数時間・数日・数週間掛かることもあるかもしれません。ですが、それを経験するにあたり、私たちがなすべきことは何もありません。私たちは努力によってそれを経験するのではありません。経験が起こるのをただ許すのです。そして、それが自然に展開されていくのに任せます。そこにストレスはありません。努力はありません。あるのは、ただ許すことだけです。

私たちは月ごとに異なる体験をしていきますが、それらは一続きのものとなるでしょう。つまり今日以降のシャウドでは、前回までにした体験を拡大・発展させたものとなります。そういうことで――カウルダーには既に伝えたことですが――私の講義する部分はこれまでよりも短めになる予定です。少しだけですが短くなります。

あなたが経験している間、私はそのエネルギーを注意深く観察しています。起こっていることを感じています。なぜなら私は――これまでに何度も言ったことがありますが――あなたが頭に入り込まないよう、あなたのマインドの注意を逸らす必要があるからです。あなたが私に注意を向けている間、何か別のことが本当にここで起こっているのです。あなたは〈安全な空間〉にいて、〈私は在る〉という自らの〈存在〉（your I Am Presence）を感じています。そしてシフトや移行が起こるのを、思考することなく、優しく静かに許しています。

「どうすればエネルギーはうまく動くのか」とか「どうすれば意識はもっと拡大するのか」などと考えることほど、それを台無しにしてしまうものはありません。ですから、私はあなたがこのようなことを考えることからあなたの気を逸らし、あなたはシフトが起こるのを許す。そういう分担でいいですよね？（聴衆から同意の声）

よろしい。それでは、今日の対話形式での質問に入るとしましょう。（リンダに向かって）マイクの準備はできていますか？

リンダ：　大丈夫よ（Yes sir）。

アダマス：　ああ、私のことは「サー」（sir）と呼ばないでください。（聴衆から笑い。アダマスもくすくすと笑う）（訳注：　セント・ジャーメインは「伯爵」なので、ナイトあるいは準男爵に対

する敬称である「サー（卿）」はふさわしくない）

リンダ：今その質問を書いた方がいいかしら？

アダマス：いえ、聴衆の方へ行ってください、奥様。

リンダ：了解（Yes sir）。（アダマスはくすくす笑う。聴衆からも少し笑い）

アダマス：では今から質問を言いますが、あまり頭で考えようとはせずに、ただそれを感じてみてください。少しの間、その中に入って感じてください。というのも、今日の体験の一部はまさに、聴くことに関するものだからです。「既にここに在るもの」を聴くということです。

今日の質問

それでは、あなた方への質問です。その中に入って感じたものを答えてください。私たちが始めた 14 年前に比べて、あるいは、私が始めた 4 年前に比べて、あなたは良くなっていますか？　それが質問です。あなたは良い方向に向かっていますか？

深くたっぷりとした呼吸をして、感じてください。あなたは良くなっていますか？

では、親愛なるリンダよ、マイクをお願いします。それでリンダ、あなたの答えは何でしょう？（マイクを持ち上げたままリンダの動きが止まってしまったので、聴衆から笑い）　これは写真に取った方がいいですね！（聴衆から多くの笑い）　彼女の意識は今、一時停止状態になっています。

14 年前です。（リンダの肩に手を置いて）それは間違いなく、あなたにとって一つの旅でした。

リンダ：私は良くなってるわよ。ええ、良くなってる。

アダマス：良くなっていると。

リンダ：ええ。

アダマス：その訳は？　具体的に。

リンダ：自分への明晰さがより深まったわ。

アダマス：よろしい。

リンダ：創造の主権性もより取り戻せたし。

アダマス：よろしい。

リンダ：それから……まだ航空会社の誰も困らせていないことかしら。（アダマスと聴衆から笑い）

アダマス：素晴らしい。（聴衆から拍手）　よろしい。よろしい。

リンダ：私はこの旅を気に入っているのよ。

アダマス：ええ。それでは、あなたは良くなっていますか？

リンダ：もちろん！

アダマス：いえ、私はシャーンブラに向かって言っています。

リンダ：ああ、シャーンブ……って、ちょっとちょっとちょっと！　私にはこれだけ！？　もう私は終わりってこと？

アダマス：（くすくす笑いながら）マイクの時間です。

リンダ：私はもう終わり？

アダマス：そうです。

リンダ：分かったわ。

アダマス：イーディス。こんにちは。

イーディス：こんにちは。セント・ジャーメイン？

リンダ：アダマスよ。

イーディス：あなたはアダマスなの？　それともセント・ジャーメイン？

アダマス：そんなことが問題ですか？　それは重要なことで

すか？

イーディス： そうじゃないけど……

アダマス： これらは同じ一つのものではありませんか？

イーディス： 確かにそうね。

アダマス： そうです。あなたは今日、どちらの方を選びますか？

イーディス： そんなこと答えられないわ。

リンダ： いいえ、あなたにはできるのよ！ 「はい」か「いいえ」か。アダマスかセント・ジャーメインか。

アダマス： （イーディスに対して）それは「分からない」と同じ類いのものです。（聴衆から「あー」という声と笑い）

リンダ： 違反回答ね。

イーディス： 私は「分からない」とは言わなかったわ。「答えられない」と言ったの。

アダマス： ではイーディス、イーディス。あなたは良くなっていますか？

イーディス： ええ、さっきリンダが言ったのと同じね。自分自身に対する明晰さや理解が深まったわ。〈私は在る〉のことも知ったし。あとは……

アダマス： ええ。ですが、あなたの言葉からは明るさがあまり感じられませんね。

イーディス： ええとね、私は今、一つ問題を抱えていて……

アダマス： あなたの頭にあるのは何ですか？

イーディス： その問題がなくならないのよ。私には豊かさが入って来ないみたいなの。だから私は、以前よりかなり貧乏になってしまったわ。（聴衆からいくらか笑い）

アダマス： 本当ですか？ あなたが？

イーディス： そうよ。

アダマス： それは悪いことなのですか？

イーディス： ええ、好きではないわね。

アダマス： いいえ、あなたはそれが好きなのですよ。

イーディス： 違うわ、私は好きじゃないの。

アダマス： いいえ、あなたは好きなのです。皆さんはどう思います？

リンダ： そう、あなたはそれが好きなのよ！（聴衆からも同意の声）

アダマス： さて、なぜ私はこのように言うのでしょうか？ あぁ、これは面白いシリーズになりそうです！ あぁ！ イーディス、あなたは以前にも、私が今言った言葉を聞いたことがありますね。あなたは、自分には問題点があると主張するかもしれません。自分は犠牲者だと一日中、主張するかもしれません。しかし、もしあなたの人生の中にあなたの好きでないものがあるとするならば、あなたは実際にはそれが好きなのです。それがそこにあるということ、あなたの現実にそれが存在しているということは、そういうことだからです。何らかの理由で、それはあなたに仕えているのです。

現在、それは苛立ちや失望感をあなたに引き起こしています。難しい状況です。あなたは絶えずそのことを考えています。それについて思案したり、自分の何が間違っていたのかと疑問に思ったりすることに、途方のない量のエネルギーを費やしています。そして、そのことがまさしく、あなたをこの「豊かさの穴」にすっぽりと嵌らせているのです。

イーディス： そうね、あなたの言う通りだわ。

アダマス： 豊かさの欠乏という穴。実際は、お金というものが人生を本当に良くするわけではありません。あなたはお金儲けのためにここに来たのではないのです。悟りのためにここに来たのです。そうでしょう？

イーディス： ええ。

アダマス： ですから、それがあなたの人生を本当に好転さ

せるということはありません。実を言うなら、あなたがひとたび、それを手放すならば、どうにかしようとあがくのをやめてただ放っておくならば、夜中に起きて悩んだりするのをやめるならば、あなたは「お金というのはさして重要ではなかった」ということに気が付きます。すると、ちょうど良いときにちゃんとお金が現れるようになるのです。そして「どうして本当に必要になる前にはそこになかったのか」と不思議に思うのです。しかし現在のところ、何らかの理由で、どういうわけか、この欠乏というものがあなたに仕えています。もちろん、その理由はあなた自身が発見しなければならないことです。ええ。あなたは難しい顔をしていますね。あなたの顔には疑いの表情が浮かんでいます。あなたが今の状況から何かを望んで受け取っているという事実を受け入れるまでは、それは依然としてそこにあるでしょう。あなたの人生に居座り続けることでしょう。

イーディス: ああ、早くそれを見つけられたらいいんだけど。

アダマス: そうですか。ではそうしてください！（聴衆からやや笑い） それから、これは精神分析ではありません。私たちはそのようなものに入っていきたくありません。幼児期のトラウマとか何かそういったものに入っていく気はありません。ですがこの豊かさの欠乏は、あなたにとってどのような役に立っているのでしょう？　私にそれを言ってもらいたいですか？

イーディス: ええ、お願い。

アダマス: 分かりました。それがそこにある理由とは、常に自分自身に焦点を合わせておくためです。あなたはそのように考えています。「貧しければ、世の中のあらゆる世俗的な物事に気を逸らしてしまうことなく、常に自分自身に意識を向けておくことができる」とあなたは考えています。「どんな世俗的な楽しみにも決して夢中になったりはしない」とあなたは何度も何度も自分に言い聞かせてきました。ですが、今はそうではありませんね。ですからあなたは今、次のように言う段階に意識的に移行する必要があるのです。「私はそれに嵌り込むことはないだろう。私は悟りの道を歩みながら世俗的な喜びも楽しむことができる。なぜなら、それらは実際に調和するものだからだ。」 あなた方全員にとってもそうです。それらは矛盾するものではなく、調和的に両立するものなのです。

イーディス: 分かったわ。ありがとう。

アダマス: ええ。私としても、壮大な豊かさをあなたに贈ることができたらと思うことはありますが、それはできません。私には不可能です。たとえできたとしても、そうするつもりはありません。なぜなら、そういった大きな贈り物はあなた自身が自らにもたらすべきものだからです。

イーディス: よく分かったわ。

アダマス: よろしい。

イーディス: ありがとう。

アダマス: そういうわけですから、そのような豊かさの問題が生じたときは――親愛なる人よ――そこに焦点を合わせないでください。それにフォーカスしないでください。なぜなら、豊かさの欠乏というのは実際、豊かさそれ自体よりも大きな「気を逸らすもの」になってしまっているからです。

イーディス: 本当にそうね。

アダマス: よろしい。ではもう一度聞きましょう。あなたは良くなっていますか、いませんか？

イーディス: ええ、良くなってるわ。

アダマス: それは大きな「はい」ですか、それとも小さな「はい」ですか？

イーディス: その中間の「はい」ね。（アダマスと聴衆は笑う）

アダマス: 結構です。よろしい。では、もう 4, 5 人に尋ねることにしましょう。

アダマス: 良くなっていますか、いませんか？

ギャレット: 良くなっています。

アダマス: よろしい。どんなふうにですか？

ギャレット: これはきっと誰かが言うことでしょうが、安らぎをより感じるようになりました。

アダマス：ええ。

ギャレット：それは本当に贈り物です。

アダマス：ええ。その通りです。

ギャレット：ええ。

アダマス：それは大きな安らぎですか？　それとも――

ギャレット：大きな安らぎです。大きな安らぎです。

アダマス：ええ。そして――あなたも実際に知っていると思いますが――そこに至るまでの中で、最も挑戦的で困難なことの一つは……差し支えなければ少しあなた個人の話をします……と言っても、どのみち私はそれを話すつもりだったのですが。（聴衆から少々笑い）

あなたにとって最も挑戦的だったことの一つは――大部分の人にとっては今まさにそうであることですが――「自分自身と共に在ること」でした。ただ自分自身と在ることです。ですが、あなたはそのための状況を整え、そして、それを体現しました。あなたはそれを統合しました。そして今、あなたはそれを教えています。

ギャレット：ええ。それから、安らぎ以外を挙げるとすれば、疑いが生じてもそれには何の意味もないと分かるようになったことでしょうか。

アダマス：ええ。

ギャレット：疑いはいつも生じますが、「私はそれを求めているのか？　それが自分に仕えることを私は望んでいるのか？　それはただの疑いでしかないのではないか？」とすぐに気づけるようになりました。

アダマス：まさしくその通りです。よろしい。ありがとう。

アダマス：今と14年前。または4年前。どちらでも構いません。

イウォナ：私はずっと良くなっています。

アダマス：よろしい。どんなふうにですか？

イウォナ：私は人生を愛しています。

アダマス：ええ。

イウォナ：それで、つい最近私は、人生が私に愛を返してくれるのを許せるようになりました。（彼女はくすくす笑う）

アダマス：あー。それはどのように起きたのでしょう？　ある日店の中を歩いていたら欲しかった物が安く売っていたとか、そんな感じで人生から愛を返してもらったのですか？

イウォナ：それはただ起こりました。

アダマス：ええ。ただ起こったと。

イウォナ：ただ起こりました。

アダマス：ええ。

イウォナ：それは一つの体験です。

アダマス：あぁー。

イウォナ：発見です。

アダマス：そうです。どんなふうに起こりましたか？　あなたはそれをどのように経験しましたか？

イウォナ：私は、「許すこと」と「受け取ること」に対して、自分を開きました。

アダマス：よろしい。

イウォナ：それは私にとって挑戦的なことでした。

アダマス：よろしい。人生から愛をお返しされるというのはどんな感じですか？

イウォナ：素晴ら……不思議な感じね。（彼女はくすくす笑う）

アダマス：ええ。そこに抵抗はありません。

イウォナ： 抵抗はありません。

アダマス： よろしい。

イウォナ： やった！

アダマス： ありがとう。次の人は……ボニー。

リンダ： あー、すぐ行くわ。

アダマス： ボニー。

ボニー： こんにちは。

アダマス： 率直かつ正直になってください――あるいはボニーかつ正直に。（聴衆からやや笑い）

ボニー： （くすくす笑いながら）まあ、やだわ！

アダマス： あなたは率直になれますね。

ボニー： そうね、私はもちろん良くなっているわ！　言うまでもなくね。

アダマス： ええ。どのようにですか？

ボニー： そうね、私たちが始めた以前の頃に比べたら、起こっている状況を遥かに良く理解できるようになったわ。

アダマス： そうです。あなたは、多くの人が現在経験しているような数々の困難を経てここまで来ました。彼らの中には、あなたがこのように言うと思っている人もいるでしょう。「これは本当に辛いことです。人生はますます厳しくなっていきます」と。ですが、あなたは代わりにこう言っています。「辛い？　いいえ違います。」

ボニー： 確かにそういったものではないと思うわね。

アダマス： ええ。

ボニー： だけどもちろん私は、多くの人と同じように、全てのものを失うという経験もしたのよ。

アダマス： ええ。ですが、それは楽しいものではありませんでしたか？

ボニー： （笑いながら）そうね！　ものすごく楽しかったわ！

アダマス： だからこそあなたは、今もここにいるのです！　生き生きとしているのです！　今あなたはマイクを通してこう話しているのです。「私は存在する！」と。失われるようなものというのは結局、それほど重要なものではないのです。

ボニー： その通りね。誰だって、そういったものがすっかりなくなれば、ずっと軽く感じるものよ。

アダマス： ええ、ええ。そうです。素晴らしい。あなたが今も笑顔でいることを嬉しく思います。

ボニー： 聞いてくれてありがとう。

アダマス： ええ。では次の人。

アダマス： （リンダがジェーンにマイクを手渡す）深呼吸です。

ジェーン： そうですね。この旅は時として非常に困難なものですが、おそらく私の気づきは 14 年前よりもかなり拡大しているのではないかと思います。私はそのことに感謝しています。

アダマス： なぜこの旅は困難なのでしょうか？　具体的には何が理由なのでしょう？

ジェーン： ええと、ボニーがまさに言ったように、物質的なもの全てを失うということです。

アダマス： ええ。

ジェーン： 唯一失わなかったのは愛する夫だけです。

アダマス： ええ。（アダマスはくすくすと笑う） あなた方は今、全てのものを失うという話をしましたが、面白いことに私は、街角で物乞いをするあなた方を一人も見たことがないのです。

ジェーン： 私たちは親しい仲ですから。

アダマス: マインドの中で。

ジェーン: そうですね。

アダマス: 実際にあなた方は、マインドの中でもそうなのです。もしかしたら、互いの銀行口座にどれくらいのお金があるのかということすら感知していたのかもしれません。ですから、あなた方のほとんどは今でも良い車に乗っていますし、今でも生活の基盤を維持しています。あなた方は互いにたくさんのことを感知し合っています。恐れや不安、「この底はどれほど深いのか？」いう思い、そして「それは重要なことではない。実際にはどうでも良いことだ」という理解、といった様々なことを感知しています。

経験される困難の中で——

ジェーン: ええ。

アダマス: 物質的・金銭的なことよりさらに困難なのは、精神的なことです。精神的に剥ぎ取られるという経験は、非常に厳しいものです。

ジェーン: ふーむ。

アダマス: ええ。よろしい。あなたは先ほど「良くなっていると"思う"」と言いましたが、はっきりそうだと言えますか？

ジェーン: 私は良くなっています。以前よりも自分自身に繋がっていると感じています。

アダマス: よろしい。

ジェーン: 直感や知っている状態(ノーイングネス)も、これまでよりも強くなっています。

アダマス: ええ。

ジェーン: そして私は、それを信頼し始めています。

アダマス: 自己価値の感覚は？

ジェーン: それは今、現れて来ています。(二人はくすくす笑う) 私はそのことに気づいています。

アダマス: ああ、確かに自己価値もいくらかありますね！(アダマスはくすくすと笑う)

ジェーン: ええ。ありますよ！ ええ。

アダマス: よろしい。

ジェーン: 大体は見えています。

アダマス: よろしい。

ジェーン: こんなところで OK ですか？

アダマス: ええ。大丈夫です。

ジェーン: ええ。

アダマス: マークにマイクを渡してくれませんか？

アダマス: 最後の回答としてどうぞ。

マーク: (深くため息をついて)じゃあ、えーと、僕は彼女の言ったこととほとんど同じかな。

アダマス: 賢い手ですね。(聴衆から笑い)

マーク: (笑いながら)でしょう。それで、あなたは僕が結婚したのを知ってるよね？ それが僕の思い描いていた生活とは全然違ったんだ。

アダマス: 全然。

マーク: そう。

アダマス: 全く。

マーク: まるっきり違うものだったんだ。

アダマス: あなたはその「思い描いていたものとは全く違うということ」について、どのように教えますか？——と言うのも、あなたは今後他の人たちに教えるようになるからですが——どのように彼らにそれを教えますか？ どのように説明しますか？ 自分が今クラスの 10 人～20 人くらいの生徒た

ちを前にして立っているのを想像してみてください。あなたは彼らに説明しようとしています。彼らは皆、形而上学やスピリチュアリティというものを知ったばかりで、舞い上がって浮かれています。まるで自分がそれを初めて発見したかのような高揚感の中にいます。彼らはとても興奮しながら言います。「私はど――んなことでもします！（聴衆から笑い）必要なことなら何でもします。」 彼らはやたらと陽気に振る舞い、自分の車の窓に天使の小物をぶら下げたり、自分の持っている水晶をあなたに見せようとしたりします。（聴衆からやや笑い）

マーク：そして僕は首を横に振っていると。

アダマス：あなたはそこに座って頭を抱えながら「あぁぁ、あぁぁ」とカーク船長のように嘆いています。（訳注：カーク船長とはスター・トレックに登場する人物。ウェルカム・アンド・シャーンブラニュースのときにその面白動画が紹介されていた） あなたは彼らに対して「それはあなたの考えているようなものではない」ということをどのように伝えるのでしょうか？ 彼らの希望や幻想を打ち砕くことなしに。

マーク：「自分の求めているものには気をつけろ」かな。（聴衆から笑い。アダマスもくすくす笑う）

アダマス：あるいはこうでしょう。「自分の求めているものを真に理解にしなさい」と。

マーク：「あなたはそれを求めているけど、それが本当に何であるか全く分かってないんだ。」

アダマス：良いことを言いますね。

マーク：「それは、あなたが想像しているようなものでは全くないよ。」

アダマス：すると彼らはあなたにこう言います。「マスター・マーク、それはどういう意味ですか？ 答えを教えてください。あなたはこのことを学びました。偉大なるアダマスのもとで学んできました。（聴衆から笑い。アダマスもくすくす笑う）あなたはそのめったにない機会を得ていた数少ない人々のうちの一人です。ああ、私たちも彼がまだいたときにそこにいられたら良かったのに。」 そしてこうも言うでしょう。「マスター・アダマスは何と言っていましたか？ 簡単に説明してください。彼のメッセージはどういったものでしたか？」

マーク：「彼の言うことは僕にはさっぱりだったな。」（アダマスと聴衆は笑う）

アダマス：ちなみに、それは素晴らしい答えですよ。私が何を言ったかなどは重要ではないのです。

マーク：そうだね。

アダマス：本当にそうなのです。

マーク：それから、「この旅は一人ひとり個別のものなんだ。だから、どうなっていくかを教えてくれるレシピなんてないんだよ。」

アダマス：ええ。すると彼らは言います。「ですが、ですが、少しだけでもヒントをください。あなたはどんなことをしたのですか？ 今のあなたを見てください。あなたの持っている何台もの車を見てください。あなたの奥さんを見てください。つまり、あなたは何か重要なことをしたに違いありません。あなたが持っている全てものを見てください。あぁぁ！ どのようなことをしたのでしょう？……あなたの周りにはオーラがあります。あなたからはチョコチップクッキーのような香りがします。（聴衆から笑い） そしてあなたは生き生きとしています！ 活力に満ちています！ 教えてください。あなたはどうやってそれをやったのですか？！」

マーク：「分からないな。」（聴衆から一斉に「あぁぁ――」という声。アダマスも目を瞑って少し首を横に振る。マークは苦笑い） あ―……

アダマス：（くすくす笑って）その後で、あなたは笑いながらこう言いますね。「ただの冗談ですよ！」（聴衆からやや笑い）

マーク：そうそう。

アダマス：ええ。

マーク：「僕が本当にやったのは、一息一息、呼吸することだった。本当に。」

アダマス：一息一息呼吸すること。その答えは気に入りました。箴言集の中に残しておくべきですね。絶対にそうすべき

です。一息一息呼吸すること……これ以外のことで彼らに伝えることはありますか？　彼らはあなたのコーヒーショップに、あなたの悟りカフェに集まります。閉店後に彼らが集まると、あなたはコーヒー1 杯につき 20, 30ドルを彼らに払ってもらいます。あなたにはその資格があるからです。

マーク：最低でもそれくらいはもらわないとね！（聴衆から少々笑い）

アダマス：（くすくす笑いながら）あなたにはその資格があります。ええ。あなたが「一息一息呼吸すること」を彼らに伝えると、彼らはこう言い出します。（アダマスは泣き言を言うような口調で）「私は呼吸することに本当にうんざりしているんです！　そんなこともうやりたくありません！　呼吸して呼吸して呼吸して、それでも何にも起きません！　私を見てください！」（聴衆から笑い）

リンダ：全然かっこ良く見えないわよ！（聴衆からやや笑い）

アダマス：そうは言ってもですね、私は年がら年中これを見ているのですよ、アーンドラのように。「呼吸することには私はもう飽き飽きしているんです。他には何かないんですか？」

マーク：「許すこと。」

アダマス：ああ、それをどういうふうにやりますか？

マーク：「ただ許すだけだ。それをただ許して。ただ手放して。」

アダマス：「そして深く呼吸してください。」（と言った後アダマスは自分で笑う）

マーク：深く呼吸すること――僕たちは戻って来たね。（聴衆から笑い）

アダマス：「そういうわけで、魔法のコーヒーをもう 1 杯注文してください。」（聴衆からさらに笑い）

マーク：それはいいな。

アダマス：ええ。「これは清められたコーヒーです。アダマスは去る前に、このコーヒー豆に祝福を与えてくれました。」（アダマスはくすくすと笑う。聴衆からもやや笑い）　こうすればお店は上手くいくでしょうね。私たちは大金が稼げますよ。

マーク：上手い売り方だね。ありがとう。

アダマス：ええ。ええ。結構です。よろしい。ありがとう。ありがとう。

質問の意図

それでは、親愛なるシャーンブラよ、あなたは以前と比べて良くなっていますか？　この質問は実際のところ、ばかばかしいものです。そのようなことははっきり言ってどうでも良いことなのです。

さらに言うなら、あなたはそれを本当には決して比較できません。もちろん、比べてみようとすることならできますし、私も実際、あなたからその答えを聞くのが好きです。確かにあなたは以前よりずっと良くなっていますよ、シャーンブラ。ですが、そういったことは本当に重要なことではないのです。ちなみに、これはどのレベルで比較しているのでしょう？　ええ、人間レベルで言うなら、おそらくあなた方の多くは、良くなっているとは言わないでしょう。あなたは今では以前と比べ、所有している物も少なくなったかもしれません。仕事にももう就いていないかもしれません。恋愛関係や日常的なセックスや良質な食事などもなくなったかもしれません。ですが……ですが……（聴衆から少々笑い。アダマスもくすくすと笑う）　ですが、あなたがそのようなものを熱望してここに来たのではないことを、私は知っています。実を言えば、本当の答えとは――イーディス――そういったものを拒否すること、押し退けることなのだと言っても言い過ぎではないのです。あなたに起こったことを見てください。そうしたものは消え去りましたね。

あなたがここに来たのは「肉体と統合された悟り」のためであることを――あるいはアセンションのためとか、何と呼んでも構いませんが――私は知っています。ある意味……（ここでジョアンがあくびをしたので、アダマスも真似をする。聴衆からやや笑い）　サンドラ、彼女にコーヒーを持って行ってくれませんか？　あと、足のマッサージ器と電線も。（アダマスが電極を押し当てるような仕草をしたので聴衆からやや

笑い）

あなたは、私が言うところの「肉体と統合された悟り」のためにここに来ました。あなたがこれをどう捉えていたかにもよりますが、いずれにせよ、あなたが決死の覚悟を持ってこの生涯に臨んでいるのは間違いありません。あなたはこう言いました。「もしこれが上手くいかないなら――」（続けて誰かが「私はここから出て行く」と言ったので、アダマスはくすくすと笑う） ええ、そうです。「もしこれが上手くいかないのなら、私はここから出て行く。もしこの生涯で悟れないのなら、ここにいる意味はない。全くの無意味だ。つまり、これは『全か無か』ということなのだ。」 あなたはテーブルに全てのチップ（訳注： 掛けに用いるコイン）を置いたのです。全てです。ですからこれは、倍になるかゼロになるか（伸るか反るかの大勝負）なのです。「これがその生涯なのだ」とあなたは言ったのです。少々常軌を逸していますが、これがあなたのいる道なのです。

さて、真実を明かすと、あなたは悟りというものを既に知っています。あなたは既に知っているのです。今、その経験へと向かっている最中です。これから経験しようとしているそれを、あなたは本当に知っているのです。

あなたはこの生涯にやって来るときに言いました。「この生涯でそこに至らなければならない。」 先ほど私が言ったように、これはものすごい覚悟を持った行為だと、あるいは、驚嘆すべき極めて大胆かつ勇敢な行為だと見ることができます。なぜならば、これはマインドや過去や集合意識（大衆意識）といった非常に多くのものから抜け出すということだからです。そしてあなたは、今もなお、ここで頑張っています。今もなお、ここに座っています。今もなお、ここに存在しています。このこともまた本当に驚くべきことです。

では、その覚悟を感じながら、深くたっぷりとした呼吸をしましょう。私たちは発見シリーズにいるのです。

私やクリムゾン・カウンシルの者たちの見地から言えば、あなたが以前より良くなっているかどうかというのは大した問題ではありません。重要なのは「あなたの意識に何が起こったか」です。私たちはそれを、あなたの光の大きさから見て取ることができます。あなたの存在の本質がどれほど広がったかで判断することができます。あなたが夢を見ているときどのような旅をしているかによって確かめることができます。14 年前と比べて、それに何か違いが生じているのでしょうか？ 大いに、大いに生じています。

さて、私は今後ドリームウォークを行なっていきたいと考えています。（リンダに向かって）良ければこれを頭に留めておいてくれますか？ できれば私はあなた方と一緒にこれを行ないたいと思っていますが、もしかしたら録音になるかもしれません。リンダとジェフリーに相談する必要があります。私たちがドリームウォークを行なうのは、14 年前に戻って当時がどのような状態であったかを理解するためです。あなたはこのドリームウォークを通して「それが自分の思っていたものではなかったこと」に気づくことでしょう。これは言わば、母親の子宮の中に戻ろうとするようなものです。実際、その当時に戻るのは難しいのです。実に難しいのです。

あなたはマインドの中では、過去の楽しかったことやひどく嫌だったことを憶えています。ですが、実際に自分の意識を過去に戻そうとしてみると、戻れないのです。ですから、私たちはドリームウォークによってそれを試してみようというわけなのです。

この発見シリーズで、私たちは何を話していくのでしょうか？ あなたは何を発見していくのでしょうか？ 改めて言いますが、私たちがこれから行なっていくことは、講義と対話、そして経験です。

ジョアン： （再びあくびをして）失礼。

アダマス： （くすくすと笑いながら）コーヒーはいりますか？

ジョアン： いえ、単にすごくリラックスしているだけだから！

アダマス： だめですよ、さあ、カーペットの上で横になってください。（聴衆から少々笑い） ここはきれいですし、私たちは家族ですから気にしませんよ。（数人から笑い） （アダマスはくすくすと笑って）カウルダーは私をたしなめています、あまりにも私が皆を活気づける話し手だということで！（聴衆から笑い）

このシリーズで発見すること

あなたはこの発見シリーズで何を学んでいくのでしょうか？ あなたが発見することになる最初のものは何でしょうか？

（小休止）

～自分自身
これは簡単です。自分自身です！　ええ、ええ、自分自身です。それが最初のものです。

さて、これは分かりきったことのように思えます。あなたはこう言うかもしれません。「ええ、ええ、ええ。私たちは何年も前にそれを学びませんでしたか？」　確かに、あなたは何年も前にそれを聞きました。しかし、習得することはありませんでした。あなたはまだ自分自身を体現してはいません。自分自身を抱き入れて、経験してはいません。

ですから一つ目は、自分自身を発見することです。自分自身です。

さて、実のところ、人間であろうと天使的存在であろうと、あらゆる存在は自らの自己から目を背けています。彼らは実際にそうしています。どうしてかは私にも分かりません――それに関する多くの説は存在していますが。人間たちは外側に自己を見出そうとします。天使的存在でさえそうです。ですがそれも、「私は誰か」ということを探究する――あなたなら「〈私は在る〉を認識する」と言うでしょうが――旅の一部だと言えます。ですから現時点では、自分自身に目を向ける人間というのはほとんどいないと言って良いでしょう。なぜか？　それが困難なことだからです。人々の内側には過去の嫌な記憶がたくさん存在しています。自分のことを好きになれない数多くの記憶があります。私は「人間としての自分」についてのみ言っているのではありません。「魂としての自分」や「スピリットとしての自分」についても言っているのです。それは非常に困難なことです。自分自身から目を逸らすためなら何でもします。自分の内側を観る代わりに、外に出て行って戦ったり戦争したりします。しかし、この発見シリーズにおいて私たちは、自分自身に目を向けていくのです。自分自身をまさしく発見していくのです。

私たちはこれを、ある視点から行なっていきます。先月のシャウドで私はそれについて言及しました。ほとんどの人の頭にはもう浮かんでいるかもしれませんね。私たちは、「完全なる赦し」（total forgiveness）という視点から、自分自身に目を向けていくのです。

私にとって――あなた方とともワークする一部の者たちにとって――難しいことは、「過去はあなたが記憶しているようなものでは全くない」ということをあなたに認識してもらうことです。あなたは、過去というのは自分の記憶どおりだと信じています。そのように信じ込み、それに沿って行動しています。だからこそ私たちはこのシリーズで、「『赦しの視点』『慈悲の心（自分を思いやる心）』を持って自己を観る」というこのコンセプト全体に取り組んでいくのです。そして、「過去とはあなたが思っているようなものでは全くない」ということを発見していくのです。さて、あなたは今そこに座りながらこう考えていますね。「うん、その通りだ。でもちょっと待てよ、私の記憶では確か〇〇だったような……」　ですから、そのようなものではなかったのです。このシリーズで私たちは自分自身を発見していきます。それは存在する中で最も美しく、そして最も大切なものです。

ですがこれは私にとって、あなた方一人ひとりに対しての最大の挑戦となるでしょう。なぜならあなた方はそれに取り組むことから、私やカウルダーやここにいる全員の注意を、そしてあなた自身の注意を、エネルギー的にも心理的にも逸らそうとするでしょうから。

「自分自身を観る」ということ、「自分自身の内に在る」ということは、なぜそれほどまでに困難なのでしょう？　これは単に人間だけではなく、全ての存在にとっても言えることです。

～神
発見シリーズにおける二番目は、神を発見するということです。（アダマスは鼻で少し笑う）　なかなか素敵なものです。神です。

リンダ：　神？

アダマス：「か・み」です。（数人から笑い）　もしあなたが許すなら――あなたなら当然そうすると思いますが――このシリーズ中にあなたは神を経験するでしょう。これはかなり大きな約束です。

イーディス：　私たちは神です。

アダマス：　あぁ！　ですがイーディス、あなたは今、神を経験していますか？　それとも、神についてただ考えているだけですか？　単に「私もまた神である」という言葉を聞いているだけですか？　あるいはそうではなく、愛に満ちた深く親密な経験として、神を感じていますか？

ただ、良い指摘です。「私もまた神である」。確かにそうです。しかし、そう言うだけでは、単なるマインドの思考にすぎません。一体あなた方のうち、どれくらいの人が実際にそれを経験したのでしょうか？

神についての多くの概念が存在しています。私は必ずしも「神」という言葉が好きなわけではありませんが、ここでは一般用語としてそれを使います。世の中には神に関する概念が数多く存在しています。ですが率直に言って、神のことを教えている人たちは、実際には神についてほとんど知りません。間違いなくそうです。狂信的な者たちや過激主義者や神の正義を掲げる者たちも、神について全くと言っていいほど何も分かっていません。彼らは、書物に書かれてあることから教えています。マインドから、制限された状態から、自分たちの信じる規範や戒律から、人々にはそれらが必要だという思いから、神について教えています。

神についての彼らのそうした教えを、なぜ他の人々は容認しているのでしょうか？　私が思い付くのは、おそらく大半の人々もまたこのような歪んだ考えを持っているのだろう、ということだけです。

この世界に存在している神の概念は、現在の意識において最もバランスを欠いた要素トップ３に入ると言っても良いでしょう。「神はどこか他の場所にいる」という概念。「父」としての神の概念。「神はルールや決まり事を持っている」という概念。「神は人間の行ないを気にしている」という概念。神についてのこうした概念は人間が作り出したものです。説教台に立っている者たちや武器を取るよう叫んでいる者たちは、神を経験したことがありません。

あなたは神を知的に理解することはできません。神を構築することはできません。あなたにできるのはそれを経験することだけです。あなたが神を経験するとき、それは深く親密な経験となります。おそらくあなたはそれを話したいとさえ思わないでしょう。それはとても美しく、とても個人的なものです。他人に話したところで、十中八九、歪められたものになってしまうでしょう。

古い時代において神に言葉や名前が付けられていなかったのは、そういう理由からです。その経験は語ることができないほど極めて個人的なものであると、少数の者は知っていたのです。

この発見シリーズであなたは、自分自身を経験することによって、自分の内側を観ることによって、「内なる神」と「内なる〈私は在る〉」を経験していきます。これはかなり難しい注文ですが――親愛なる友よ――あなたにその用意ができていないのなら、あなたの身体やマインドにその準備が整っていないのなら、私は今この言葉を言ったりはしません。

人々の中には、自らの中核部分――神――に至ろうとして、時にあまりにもバランスを欠いた死に物狂いなやり方によってそれを成し遂げようとする人がいます。時には薬物を使ったり、激しい儀式を行なったりする人もいます。しかしそのようなことをすれば、完全にバランスを失ってしまう怖れがあります。有害無益、全くの逆効果ということにもなり得ます。あなた方の中で薬物を使ったことのある人が身を持って実感したのは、「もし自分の全ての部分に、この経験をしてもバランスを保っていられるだけの準備ができていないのなら、自分はバラバラに引き裂かれるかもしれない。マインドは吹き飛ばされ、身体も破壊されてしまうかもしれない」ということでした。ですが、あなた方は皆それぞれ、とても自然に、とても個人的に、それを経験する準備ができています。

～信念が存在しないこと

発見シリーズにおいてあなたはまた、「いかなる信念も存在しないこと」を見出していきます。（リンダに向かって）「信念が存在しないこと」と書いてくれますか？　どんな信念も存在しません。あなたは信念というものが存在すると信じていますが、そうではありません。もしかしたらこれは多くの議論を呼ぶ声明かもしれませんが、「信念は一切存在しない」というのが私の主張です。信念というのは実際のところ、深く植え付けられたプログラミングです。強力なプログラミングです。その中には、あなたが自分の個人的な信念や信条だと考えているものもありますが、それらもまたプログラミングなのです。ですから、信念というようなものは実際には存在しません。本当に存在しません。

人々は信念を自らの拠り所としています。彼らは言います。「私はこれを信じている。あれを信じている。」 そのようなものは全て巨大なプログラミングにすぎないのだと、私は強く主張したいと思います。プログラミングがあるのは、あなたがそれを許しているからです。プログラミングは人間が活動している限り――この地球に来る以前であっても――常に生じているものですが、現在、これまでにも増してさらに深く強力になっています。

もしあなたが道を歩いている一般の人々のエネルギーを感じてみるなら、そのエネルギーの輪郭やパターンがひっきりなしに変化し非常に混沌としていることに気づくでしょう。それらは彼らの持つ無数のプログラミングによって引き起こされているのです。プログラミングには実際、一貫性というものがありません。一致して適切な方向に進むということがありません。それぞれが皆バラバラな方向へ行きます。

人間は、相反する信念を同時に持つことがあります。自分のことが大好き／大嫌い、世界は良いもの／悪いもの、水は冷たい／温かい、などいったものです。こうした様々な信念――プログラミング――は調和しておらず、互いに矛盾し合っています。もし彼らがそのような信念を信じ続けるのなら、彼らは最終的に完全な崩壊へと至る羽目になるでしょう。もし彼らが自らの信念を掴んで離さないのなら、いつかは精神的な破綻が生じることでしょう。

そういうわけで、私たちは「信念というものは存在しないこと」を学び、発見していきます。信念とは全てプログラミングでした。私たちはプログラミングを解除する方法を習得していきます。それと戦うのではなく、解除するのです。罪や苦しみを背負うのではなく、「これを引き起こした自分は悪い人間だ」などと考えるのでもなく、「これら全ての信念は自分のものではない」と理解するのです。私たちは信念そのものを超えていきます。

あなたは「信念なしで存在している自分」を一瞬でも想像できますか？　難しいかもしれませんね。（アダマスはくすくすと笑う）

「信念というものが一切ない自由」を少しの間、想像してみてください。こう言う人もいるでしょう。「ならば、私はこれからどうしていけば良いのですか？　私は誰なのですか？　私の持っている信念は私のアイデンティティの一部なんです……」 ですが実際には、そのような信念は、あなたに役立っているというよりむしろ、あなたの害になっているのです。

あなたは物事を解決したり丸く収めたりするために、古いプログラミングに基づいた信念を新たに作り出します。しかし、あなたが実際にやっているのは問題の本質を隠蔽する行為なのです。あなたはそれらをカーペットの下に入れて隠そうとしているのです。ですから私たちは今年度、信念というものを追求していきます。そして「信念なしの裸の自分」に到達するまで、それらを解放していくのです。

～パワーが存在しないこと

では、このシリーズで私たちが発見していく四番目です。これはトバイアスが随分前に話したことでもありますが、実際にはまだ真に深くは経験されていないことです。すなわち、「パワーというものは存在しない」ということです。パワーは存在しません。パワーの必要性も存在しません。この世界は――地球以外の多くの世界でもそうですが――パワーという信念のもとで動いています。人々はパワーを追い求めます。何とかして手に入れようとします。他人から奪おうとします。パワーは……（リンダに向かって）ええ、「パワーが存在しないこと」と書いてください。パワーの必要性も存在しません。ですが、ニュースを見てください。他の人々を観察してみてください。そこではパワーゲームが繰り広げられています。

エネルギーにまつわる問題は現在、この世界だけでなくこの宇宙の他の多くの場所でも直面しているものですが、パワーはその要因の一つにもなっています。なぜなら、彼らはパワーというものを信じているからです。

人はパワーを持つことで、あたかも自分が強くなって自分に価値があるかのような感覚を覚えます。アイデンティティや存在意義を得たかのように感じます。それで、人はパワーを手に入れようとするのです。その最も手っ取り早い方法とは、「彼らは自分より優れた存在だ」と相手に信じ込ませることです。それは心理的なパワーです。文字通り、その者からエネルギーを取り上げ、ついには財産まで奪い取るレベルへと至ります。

ほとんどの人々はセックスを通してパワーを得ます。セックスとは満足を与えてくれるものだと彼らは思っていますが、実際にはパワーゲームなのです。本当です。そういうわけで、ほとんどの人にとってセックスの経験というものが、本来なら経験し得るものにはなっていないのです。そして、ED治療薬に関する産業が信じられないほどの規模にまで発展しているのです。4ヶ月だか効力が持続するとかいう。（聴衆から笑い） 4日間でしたかね、私は知りませんけど。（続けて笑い） 私にはその問題はありませんので。（さらに笑い） 私は肉体の中にはいないのです。（何人かから笑い）

人間たちは――これは人間だけでなく多くの異星人たちにも言えることですが――他人からパワーを奪い合うパワーゲームを絶えず続けています。地球上で四六時中それが行

われているのを見ることができます。政治家やビジネスマンや軍人といった人たちは、ひっきりなしにパワーゲームをしています。軍事的な衝突が起こったとき、そこには必ず、ちっぽけなパワーを求める者がいるのです。本当にそうなのです。

ですから、このパワーゲームというものはあらゆる場所で行われています。しかし真実を言えば、あなた方は何一つパワーを必要としません。存在するいかなるエネルギーも本当に必要としていません。あなた方はエネルギーなしで存在することができます。ですが一方で、莫大な量のエネルギーがあなた方に仕えるためにそこで待機しているというのもまた事実なのです。

パワーとは、エネルギーを歪めること、または操作することです。私たちは、パワーなしで進む方法、パワーによらずして自分自身へと入っていく方法を習得していきます。あなた方の多くはいまだにパワーを利用していますが、パワーを使ったり他人とのパワーゲームに興じたりするのはもう終わりにするときです。ええ、これはセクシャルエナジー・スクールの一部、もしくはその延長と言えます。ですから今年度は、パワーもその必要性も存在しないことを発見していきます。パワーは必要ないのです。

「どんな種類のパワーも必要としていない自分」を想像してみてください。財政的なパワーや健康をもたらすパワー、肉体的なパワー、他人に対するパワーなど、いかなる種類のパワーも必要としない自分です。

あなた方の多くは過去世で、サイキックエネルギーと遊ぶことにのめり込みました。自分のエネルギーやサイキック能力を他人に対して使う方法を学びました。そういうわけで、いまだにあなた方の多くがそれによって苦しんでいるのです。なぜなら、誰かに対して魔術を使うというのは、実際には自分自身にもそうしているということだからです。そして、それこそが魔術における問題なのです。わたしが魔術を嫌っているのはそういう理由です。あなた方が実際にしていたのは自分自身にも魔術を掛けていたということだけだったからです。

あなたはこのパワーというもの全てに夢中になりました。初めの頃は自分や家族などを守るためでしたが、あなたはそれにどんどん嵌まり込んでいきました。それは抜け出すことの困難なサイクルです。このパワーのサイクルから抜け出すのはとても難しいことですが、あなたはそれを簡単に行なう方法を発見していくのです。

～気づき

発見リストの五番目の項目は、私たちが「気づき」と呼んでいるものです。より具体的に言えば、「自分自身の内なる声に気づく」「自分自身に耳を傾ける」ということです。あなたは知っておくべきことの全てを知っているのです。単にその事実をあなたがまだ知らないというだけです。（聴衆から少々笑い） あなたは何が正しいかを知っています。しかしあなたは、あれこれ考えたあげく「分からない」と言います。自分にとって正しいことが何なのか知らない振りをします。ところで、私はこの「正しい」という言葉を、価値判断の観点からではなく「自分にとって何が適切か」という観点から使っています。

あなたがいつまでも決断を下すのをためらい先延ばしにしていると、エネルギーは動きを止めてしまいます。するとあなたは苛立ちや挫折感を感じます。そして他人のパワーの影響下に置かれることになります。こうしてあなたはエネルギーの落とし穴に嵌るのです。だからこそ、私たちは「自分自身に耳を傾ける」ということに入って行くのです。

さて、これを行なうのは実際、容易なことではありません。ですから私はこれをリストの最後に持って来たのです。自分自身の内なる声を聴くことができるようになるためには、あなたはまず、（アダマスはリストの最初に書いた「自分自身」を指さして）ここに入らなければならないのです。あなたは何が正しいかを既に知っているにもかかわらず、こっち（頭）に入り込んで疑いを抱いたり「分からない」と言って悩んだりすることに夢中になっていました。しかし、あなたが「分からない」と口にするたびに、状況はより酷くなるだけなのです。なぜなら、あなたは本当に知っているからです。

自分にとっての正しいことを実践していけるよう、私たちは今年度それを自覚する経験へと入っていきます。中にはあなたにとって非常に気づきづらいものもあるでしょう。もちろんあなたは既にそれを知っていますが、他人の声に影響されるのをいまだに許しているために、自分自身の内なる声がかき消されてしまっているのです。私たちはそのような歯車から抜け出していきます。あなたは何が正しいかを既に知っているのです。

悟りとは、知的に理解され得るものではありません。他人か

ら学べるものですらありません。悟りは学習講座(コース)ではありません。悟りとは「許すこと」(allowing)です。「信頼すること」と言っても良いでしょう。悟りとは「経験するもの」です。ですから私たちは、この発見シリーズにおいて、まさにそのことに入っていくのです。

その発見の中へと、深くたっぷりと呼吸していきましょう。

ここまでの内容を要約すると、「私たちは今年度それを経験することに入っていく」ということです。私たちはその経験に足を踏み入れていきます。経験です。ええ、もちろん、あなたは経験が何であるかを知っています。経験とは経験です。

あなたは、ものすごい荒波の中で、嵐の中で、ボートに乗って出発するのです。あなたはボートが沈んでしまうのではないかと不安を感じますが、それも経験の一部です。アドレナリンのみなぎるものになるでしょう。あなたはこう思います。「ボートに何が起こるのだろう？　私に何が起こるのだろう？」 それはまさしく一つの経験なのです。何が起ころうとも、あなたは存在し続けます。それだけは確かです。

深く呼吸して経験に入っていきましょう。そうです。

意識

それでは、経験に関して、私たちが最初に話していくことは「意識状態」についてです。意識状態です。

意識とは気づきです。思考ではありません。基本的に、意識と思考との間には繋がりや重なり合う部分はほとんどありません。思考することによって意識に到達することはできません。それは不可能です。あなたはそれを試してみたことがあります。「私は〈私は在る〉である」について考えを巡らせたことがあります。(そう言った後、アダマスは肩をすくめ、首を横に振る)　ですが、それを経験することはできます。その意識を持つことはできます。

意識とは……智慧です。深い智慧です。「ああ、そうか！」という閃きです。現在あなたは、新しい意識状態を経験する準備として、たくさんの経験を自分自身に許しています。しかし同時に、その意識状態について思考を巡らせています。疑ったり不安に思ったりしています。だからそれは入って来れないのです。そこで待機状態になっているのです。

あなたが意識を経験するとき、それを説明することはほとんど不可能です。先ほど神に関して言ったことと同じです。あなたは説明したいとさえまず思わないでしょう。言葉や思考によってその経験を汚したり、上手く説明できないことで他人から批判されたりはしたくないからです。

意識状態は柔軟であるべきです。ですがほとんどの人の場合、それは非常に硬直化しています。非常に直線的です。言い換えれば、彼らはある意識レベルに到達するために、わざわざ一つ一つ順番に移っていかなければならないのです。

思考を通して意識を拡大することはできません。これは太字で書かれるべき言葉です。思考を通して意識を開くことはできません。決してできません。思考自体を若干増大させることならできますが、思考によって意識を拡大することはできません。

ほとんどの人々は、悟りや意識に関して思考しています。それは――初めは面白いものですが――円環に嵌まり込むようなものです。身体が行き詰まり、マインドが行き詰まります。ひどい抑鬱状態になることすらあります。

ほとんどの人々は、意識を非常に直線的な視点で捉えています。つまり、一度に行なえるのは一つだけ、一度に持てるのは一つの意識レベルだけ、というように考えています。ですが現実には、意識とはマルチレベルで多次元的なものなのです。あなたはたくさんの意識状態を同時に持つことができるのです。一度に複数の意識状態を持つことができるのです。

さて、マインドはそのような状態が全く好きではありません。マインドは「どうなっているのか全然わからない」と言います。ですが、それで良いのです。神や悟り・自己・生命といったものはマインドで理解することはできません。そうしたいともあなたは思わないでしょう。それらはただ経験することなのです。

意識を経験することや拡大することを自分自身に許すと、その意識の中に自然と智慧がやって来ます。表面的なことや細かなこと、あなたがトラウマだと思っている過去など、そのような全てが自然に剥ぎ取られ、蒸留されて、本質だけが

「魂の自己」にもたらされます。そして智慧が意識へと入って来ます。するとあなたは意識を開くことの喜びを口にするのです。

意識とは獲得するものではありません。外に出て行ってより多くを手に入れるというようなものではありません。あなたは「既にここに在る意識」を拡大していくのです。あるいは、それに気づいていくのです。意識と経験とが混ぜ合わさるとき、あなたがその二つの要素を一つにするとき……ちなみに、ここで言う経験というのは例えば、生きる経験のことです——困難な経験でも素晴らしい経験でも何でも構いません。あなたが何であれそのような経験と生（なま）の意識とを溶け合わせ一つにするとき、言葉ではほとんど言い表すことのできない何かがあなたに訪れるのです。

意識それ自体は、空っぽの杯や器のようなものです。それは既にここに在ります。ここに存在しています。ですが今、意識は「この現実の中で感覚を伴って自分自身を経験することにより自らを満たしたい」と望んでいます。そうすれば意識は、いっそう深く、その根底から、自分自身を知ることができるからです。自分自身と繋がることができるからです。

マークよ、あなたは自分のもとにやって来る生徒たちにこう話すでしょう。「肝心なのは意識です。自らの栄光のために、智慧のために、〈私は在る〉のために、自分自身を経験したいと願っている意識こそ、真に重要なものなのです。」

経験が好ましいものかどうかとか、14 年前より人生が良くなっているかどうかなど、意識は本当に全く気にしません。意識にとって関心があるのは「経験そのもの」だけです。意識は「経験そのもの」を純粋に愛しているのです。それが全てです。そこに価値判断はありません。何一つ信念もありません。

意識へと没入する

それでは、深く呼吸をしましょう。照明を落としてくれるようお願いします。ジョン、何か素敵な音楽を掛けてもらえますか？　それから、私はこれをメラブとは呼ばないつもりです。私たちは、「まさにここに在る意識そのもの」に入っていくのです。

（音楽が流れ始める（『Liquid Mind』からの楽曲））

さて、照明が落とされ、ちょっとした軽音楽が流れ始めると、面白いことに、あなたは考えることができなくなります。それをただ感じ、経験するようになります。ですから、そのままそうしているようお願いします。無理に感じようとはしないでください。経験することを無理強いすることはできません。

目標とする状態はありません。意識を経験することに正しいとか間違いとかはありません。間違うこと自体不可能です。

意識状態とは、あなたの気づきがある場所での意識のことです。

あなたの気づきの一部は、この部屋のまさにここにあります。あなたがどこかでこれを視聴しているならその場所にあります。あなたの意識の一部はあなたの身体にあります。あなたは常に自分の身体を意識しています。あなたの意識の一部はまた、これから起こることを知るために明日や明後日にそっと入っていっています。さらに、昨日起こったことや去年起こったこと、あるいは前世で起こったことにも入っていっています。

お分かりのように、これらの気づき／意識は皆とても線形的です。あなたの気づき／意識は今、あなたの信念や知覚、恐れや願望に焦点を合わせていますが、実際には、もっとずっと大きな意識が存在しているのです。それは既にここに在ります。あなたは深く呼吸をして、自らの意識が拡大していくのを許すことができるのです。

（小休止）

面白いことに、起こることは何もありません。ああ、つまり、少なくともマインドですぐに把握できるようなことは何も起こりません。

あなたは深く呼吸して、意識が開かれ拡大していくのを許していますが、あなたのマインドはこう言っています。「ええ、だけど私には何も感じられないし、何も起こってもいない。」ですがそれでも、それは開いていっています。拡大していっています。なぜならあなたは今、それを許しているからです。それを選択しているからです。あなたは自分の意識を自由に拡大することができるのです。ですから、それはそうなっていっています。

これは自分自身を開いていくということです。自分の意識をより柔軟にしていくということです。ただ人間的現実にだけ焦点が当てられている状態ではありません。マインドのフィルターを介したものにだけ気づいている状態でもありません。

深く呼吸してください……開かれた意識状態へと……

（小休止）

今日のシャウドの初めに私は、あなたの内側に——あなたの身体やマインドの中に——私を招くようあなたにお願いしました。あなた方のほとんどは自分自身を信頼し、勇気を持って自らを開きました。

ここで私たちは今、再び自らを信頼して開いた状態になり、深く呼吸して意識が開いていくのを許します。マインドは言います。「ええとそれで、私は何をしたら良いのだろう？」何もありません。一切何もありません。

マインドは何らかの反応が起こることを期待していますが、そういったものが起こる必要はありません。

ただシンプルにそれを許してください。これはある意味、一本の光の光線を拡大していくようなものです。光線は最初、とても小さな狭い範囲だけを照らしています。今、あなたは深く呼吸して、その光線——あなたの意識——を大きく広げていくことができるのです。

再度言いますが、意識は思考ではありません。いくら思考を巡らせたりマインドを働かせたりしても、そこには意識はほとんど含まれていません。ですがこの地点こそ、悟りの道にいる多くの者たちが気を逸らしている場所なのです。彼らはあまりにも思考しすぎているのです。

思考を働かせることで、あなたは自己コントロール感を感じます。自分が何かを行なっているのだと、自分が思考しているのだと感じます。しかし、真の意識においては、いかなる思考も存在しません。ですから、思考を超えるには相当な自己信頼と勇敢さがいるのです。

多くの人はこの地点で立ち止まって、こう言います。「でも、私は何が起こっているのかを知る必要がある。今どうなっているのかを知る必要がある。それについて思考し理解できる状態でいる必要がある。」 さらにこう言います。「もしコントロールを失ってしまったら、マインドから出てしまったら、どうなるのだろう？」

ですが、まさにそここそが、私たちの向かっている場所なのです。私たちは今、パワーとコントロールという概念を越えつつあるのです。

ですから、深く呼吸をしましょう。

意識には思考はありません。

（小休止）

意識には言葉はありません。

（小休止）

数式のようなものも一切ありません。全くありません。

（小休止）

枠組みや構造もありません。

（小休止）

それを経験するのをただ自分に許すだけです。

もしあなたのマインドがまだおしゃべりを続けているようなら、黙るようにはっきりと命じてください。

（小休止）

エネルギーも思考も一切必要としない新しい意識状態へと入っていくのを、あなたは今自分に許しています。

意識とは気づきです……空け開かれているものです。

ああ、そうです、シンプルさもあります。意識はとてもシンプルなものです。マインドはゴチャゴチャとして込み入っていますが、意識はシンプルです。そして、この柔軟で開かれた意識状態の中で、あなたは再び感じ始めることができるのです。感じることを取り戻すことができるのです。

（小休止）

意識というのは、とても流動的で開かれた状態になれるのです……広大に拡大していけるものなのです。

ただ深く呼吸して、それを許してください。

（小休止）

この発見シリーズにおいてあなたは、「自分がいかに『意識』という存在であるか」を知ることになるでしょう。

そこに至る方法を考える必要はありません。それ自体不可能です。あなたは思考を働かせる必要もなく、ただ「自覚」と「目覚め」を自分自身に許していくのです。マインドにとっては想像しがたいことですが、それについて考える必要はほとんどありません。

深くたっぷりと呼吸してください……

（小休止）

意識というものは、他人が所有したりコントロールしたり操作したりできるものではありません。神ですら不可能です。大天使でもどんな存在でもできません。意識とは〈私は存在する〉（I exist）です。〈私は存在する〉。そしてそこから、さらなる壮大な気づきへと、さらなる素晴らしい経験へと、拡大していくのです。

（小休止）

マークよ、あなたはいつか生徒にこう伝えることでしょう。「意識が小さければ経験も小さくなり、経験が小さければ意識も小さくなるのだ」と。言い換えると、「気づきを制限すれば経験も制限され、経験を制限すれば気づきも制限される」ということです。

あなたが深い呼吸とともに、純粋で開かれた自己信頼の中で、大きな経験をすることを許すなら、あなたは大きな意識を得るのです。そして、あなたが大きな意識を許すなら、あなたは大きな経験を得るのです。

経験とはまさに、〈私は在る〉〈私は存在する〉ということを喜び祝う方法なのです。

この発見シリーズであなたは、「もはや学びやレッスンとして人生を経験する必要は全くないのだ」ということを認識するでしょう。「学びのための経験」という言葉を使うのさえやめましょう。学びやレッスンは必要ありません。その必要は一切ありません。あなたは言います。「スピリットは私に何を伝えようとしているのだろう？　どうしてこのようなことが起こったのだろう？　スピリットが私に教えようとしていることは何なのだろう？」 スピリットはただこう言おうとしているだけです。「こんにちは。あなたが生き生きとしていて何よりです。あなたは今から何をするつもりですか？」 そのときこそ、あなたは深く呼吸してこう言うのです。「私は自分の意識を開いていくつもりだ」と。

では、この葬式音楽を止めてくれるようジョンにお願いしたいと思います。（聴衆から少々笑い）　私たちは静けさの中に、意識の静寂の中に、ただ在ることができます。

深くたっぷりとした呼吸をしてください。考えることなしに。

（小休止）

思考に固執するマインドを超えてください。そして、空け開かれた意識へとただ没入していってください。

（小休止）

何も考えず、一切の思考を持たず、目標すら持たずに、意識そのものにただ没入していくこと。あなたには来月のシャウドまでにこれを経験してもらいたいと思います。ただ意識に没入していってください。それは学びやレッスンとしてではない経験をもたらしてくれます。いかなる構造も枠組みもフィルターも持ち込むことなく、意識それ自体に没入していってください。

さて、おそらくあなたは時として、頭の中がひどく混乱するように感じる瞬間を持つこともあるでしょう。ですが、それもただの経験です。車の運転などに影響することはないのだと自分自身を信頼してください。

あなたが自らの意識を開き、より柔軟にしていくと、マインドは何が何だか分からなくなってイライラしたり不快感を感じたりするでしょう。しかし、それを許すこともまた経験の一部です。ただそれを許してください。

よって今月は、たとえあなたが自宅のパソコンの前で座っていようと散歩に出掛けていようと、思考や構造やフィルターなしにただ意識そのものに没入していくことに取り組んでください。

それでは明かりを元に戻しましょう。深くたっぷりと呼吸してください。発見シリーズの幕開けです。深くたっぷりとした呼吸……（アダマスは息を吐きながら）あぁぁー！　意識。あぁ、それは素晴らしいものです。

あなたが意識と遊ぶことに慣れていくにつれ、あなたは、自分の望むどんな所にも意識の焦点を――レーザーのような焦点を――合わられるようになっていくでしょう。あなたは、複数のレーザー焦点を同時に維持することができるのです。さらにまた、「一つの壮大な気づきの意識」にまで拡大することもできます。逆に、確認できないほど意識を小さく小さくしてしまうこともできます。あなたは自分の意識をどんな状態にも好きなように変化させることができるのです。

意識は他人とゲームをするためにあるのではありません。これは自分自身のためのものです。外に出て行って自分の意識を他人にレーザー照射するような真似はやめてください。（数人から少々笑い）　そんなことをしても、やり返される羽目になるだけでしょう。

意識というのは本来、従順で融通の利くものだということを、あなたは発見するでしょう。それは一緒に遊んだりワークしたりできるものなのです。意識はあなた自身のものです。つまり、あなたの中核を成すものです。ですが、あなたの意識は非常に凝り固まってしまっています。あなたはそのようにプログラムされてきました。「意識や気づきは少しずつ増加していくものである」というような信念体系をあなたは持っていました。しかし、それは事実とは全く異なります。全くもってそうではありません。あなたは好きなだけ自分の意識を拡大できるのです。

このことは、あなたのマインドや一部の信念との興味深い衝突をいくらか引き起こすことでしょう。そういうわけで私は「あらゆる信念は意識から一掃されることになる」と言ったのです。それらは意識から完全に退場することになります。

来月再び集まる日まで、深くたっぷりとした呼吸を続けましょう。それは柔軟で自由な意識状態をもたらしてくれます。

それでは、私の聞きたい言葉とは何でしょう？

聴衆：「全創造において全ては上手くいっています。」

アダマス：　そして既にそう在ります。（And so it is.）

ありがとう。今日は早めに終わりです。ありがとう。ありがとう。（聴衆から拍手）

翻訳：dai